

視察日程：令和8年1月20日（火）午後3時から午後4時30分まで

視 察 先：大阪府池田市

視察内容：英語教育推進事業について

視 察 者：小浦智夫議員、泉 清秀議員

1 英語教育を通して目指す子ども像

(1) 背景

国際化の進展

多様な文化や価値観を持つ人との協働が必要不可欠

さらなるコミュニケーション能力が必要開設の経緯について

(2) 目指す子ども像

多様な他者と直に意思疎通できる安心感、自身、豊かな人間関係を築く事ができる。

進学や留学、就職など言葉や国境の壁を越えて、自らの人生を舵取りすることができる。

(3) 外国人英語教師

7人のALTを全市立学校・幼稚園に配置

英語専科教員と授業の実施

幼少期から、異文化や外国の方が話す英語に触れる機会を保障するとともに、質の向上を図る。

(4) 英語教員研修の実施

市内及び豊能地区教職員が対象

第1回 ALTの効果的な活用について

第2回 主体的に取り組む態度の育成について

第3回 VUCA時代の生きるのに必要な「資質・能力」の習得について

日々の授業改善、英語教員の資質・能力の向上

(5) その他の取組

ア 学校独自の取組（英語を使う場）

留学生（大阪大学）との交流授業

イングリッシュパーク（体育館でワークショップ形式）

EMO-グランプリ参加

万博会場でお笑いの披露

イ 英語力向上に寄与している取組（予習・復習の場）

スタディサプリによる英検対策講座等の配信

(6) 結果

成果においては全国平均を上回っている。

経年で上昇傾向にある。

CEFR A1 レベル相当以上

2 所感

池田市が長年にわたり英語教育を戦略的かつ一貫して推進してきた歩みとして、2004年の構造改革特区の認定を契機に、全国に先駆けて小学校全学年への英語活動を導入した点は、当時としては極めて先進的であり、その後の全国的な教科化の流れを先取りするものであった。

2008年度の教育課程特例校の設置、2017年度以降の「英語教育推進事業」など、節目ごとに施策を段階的に強化してきた姿勢は、単なる流行ではなく、明確な教育ビジョンに基づくものだと感じられた。特に、小学校への英語専科教員配置や、中学校でのオンライン英語トレーニングの導入は、4技能育成を実質的に支える具体策として効果的であると感じた。

また、小学6年生を対象とした英語4技能検定の導入は、学校現場がPDCAサイクルを回すための重要な指標となっており、データに基づく授業改善が着実に進んでいると感じた。年度ごとに受検者が異なるためスコアの変動はあるものの、全体として上昇傾向にあるという説明は、これまでの施策が確かな成果を生みつつあることと感じた。

総じて、同市の英語教育は「早期化」「専門性」「データ活用」の3点がバランスよく組み合わされており、自治体としての先進性と継続性が際立っている。今後は、蓄積されたデータをさらに分析し、個別最適な学びや中学校・高校へと発展させることで、より一層の成果が期待できると感じた。